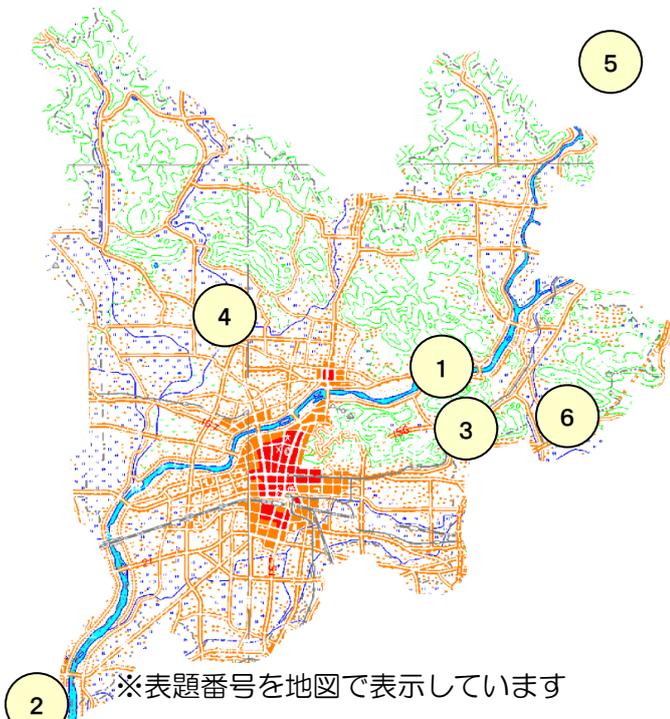


岐阜市自然・環境活動ニュース

2012年8月号

岐阜市には、金華山、長良川をはじめとする誇るべき自然環境が多くあります。その一方で、生活環境の変化、生活基盤を支える様々な整備などにより貴重な自然環境が減少している事実があります。そのような現状の中、今一度岐阜市の自然環境を見つめ直し、私たちの財産として、自らの手で素晴らしい自然環境を次代へ引き継ぎましょう。

岐阜市の自然や環境活動の情報を「岐阜市自然・環境活動ニュース」としてお伝えします。



※表題番号を地図で表示しています

①今年も「竹の子まつり」が開催されました

6月3日(日)長良川河畔の岐阜市竹広場公園にて、ボランティア「風と土の会」主催の「第16回竹の子まつり」が開催されました。開場と同時に竹林広場公園には500名参加者が集まりました。

会場では、竹細工づくり、竹馬づくり、竹炭、ジャングルジムと竹を使った体験がいっぱいです。お昼は皆さん期待の「竹の子ご飯」です。参加者は竹の容器によそってもらった竹の子ご飯で竹林の恵みを満喫です。



100食ほど用意されたとのことでしたが、配布が始まって30分ほどで無くなるほどの大盛況です。

今年は、竹林内でのカブトムシの幼虫探しも実施さ



れ、たくさんの幼虫が採取できました。

毎年、多くの市民が楽しみにしている「竹の子まつり」ですが、会場の準備や当日の運営などご苦労も多いことと思います。「風と土の会」の皆さん、ありがとうございました。

②「答志島奈佐の浜海岸清掃」開催報告

伊勢湾には、東海三県の河川から、年間10,000tのゴミが流れ出ていると言われています。中でも、伊勢湾の出口、答志島の奈佐の浜には年間数千tの漂着ゴミや流木が押し寄せ、漁業に大きな被害をもたらしています。その漂着ゴミの問題の対し、東海三県の環境団体が「22世紀奈佐の浜プロジェクト」を立ち上げ行動することになりました。

当然、長良川の流域に暮らす岐阜市民も人ごとではありません。6月9日(土)に、今後の活動の下見を兼ねて、答志島の奈佐の浜で海岸清掃活動が行われました。東海三県から270名の環境団体の皆さんが鳥羽から船で、答志島へ集まりました。岐阜からも岐阜市、郡上市などで活動している環境団体、大学生など50名を超える参加者がありました。

今年の9月に本番の清掃活動が行われます。ゴミを拾い続けることも大切です。しかし、この現状を地域の活動へ活かし、流域全体で解決していくことが大切です。

22世紀奈佐の浜プロジェクトの目標は、「100年後に奈佐の浜の漂着ゴミ“0” 奈佐の浜に、伊勢湾に豊かな海を取り戻そう」です。



③「達目洞田植え体験・どろんこ体験」開催報告

6月16日(土)に達目洞では、田植え体験、どろんこ体験が行われました。前夜よりの雨にも関わらず多くの方が参加されました。

今年の活動は損保ジャパン株式会社のSAVE JAPANプロジェクトの支援を受けての開催です。これは、全国すべての都道府県で活動を通して、全国の貴重生物の保護や生息環境の保全を進めようとするものです。



開催の挨拶の後、早速田植えがおこなわれました。ロープに付いた目印を目安にして 苗を植えていきますが、前かがみでの作業、さらに泥に足を 取られるので思った以上に体力を消耗します。それでも親子や大学生みんなで協力しながら無事に苗を植え終えることができました。続いて大学生と子ども達のどろんこ遊びが



始まりました。田植えの後でも子ども達は元気いっぱい。水を張った田んぼの中で ポールを投げあったり、おいかっこをしたりして子ども達も、大学生もみんな泥で真っ黒になりながら楽しんでいました。豚汁の昼食をいただいた後、自然観察会が開催されました。



秋には、同プロジェクトで稲刈りを行います。

秋の里山の恵みを楽しみにしてください。

④岐山高校生物部が環境学習の講師を務めました

7月3日(火)岐山高校生物部の皆さんが西郷小学校4年生の環境学習で出張授業を行いました。

日頃、研究対象にしているホタルとカワニナを事例に、「豊かな自然を守るための私たちができること」をテーマにした授業です。

ホタルのエサとなるカワニナの放流が地域の生態系に与える影響や琵琶湖産のカワニナと伊自良川のカワニナの違いなど、調査にもとづいてわかりやすく解説してくれました。現在、琵琶湖産のカワニナの放流により伊自良川のカワニナやチリメンカワニナが減少しているそうです。また、琵琶湖産のカワニナの寄生虫や細菌、ウィルスの影響などが岐阜市固有の生態系に与える影響などもあるそうです。ホタルの減少はエサの減少による影響だけでなく、その生息環境の改善を行わないと、増えません。安易な放流は、岐阜市の自然環境に影響を与えてしまいます。



⑤「第2回清流の国ぎふづくり県民大会」開催報告

7月15日(土)に、昨年より始まった「清流の国ぎふづくり県民大会」が高山市で開催されました。

その中で、自然環境の保全に貢献する団体に対し、「ぎふ清流環境賞」の表彰があります。第1回の昨年は、岐阜市内で活動している「天神川を考える会」と「達目洞自然の会」が受賞しています。

今年も岐阜市の「NPO法人森と水辺の技術研究会」が清流環境賞を受賞しました。



受賞式のあと、森と水辺の技術研究会の野村理事長より「会を設立して以来、流域や森・川・海のつながりが環境の保全や地域づくりの視点として大切だと考えて、分野や地域をこえた連携やそれをわかりやすく伝える活動を続けてきた。10年たって、現在それが当たり前になり、流域の保全やより広い視点の活動が増えてきたことに感謝している。これからも活動を続けて、次代に継承していきたい」といった趣旨の受賞記念プレゼンがありました。

<ぎふ清流環境大賞>

- ・岐阜県立飛騨高山高等学校環境科学科

<ぎふ清流環境賞>

- ・NPO法人 ドングリの会 (会長：稲本正)
- ・NPO法人 森と水辺の技術研究会 (理事長：野村典博)

<ぎふ清流環境賞奨励賞>

- ・関市立武儀東小学校

⑥「大洞の里山で流しそうめん」開催報告

7月28日(土)に大洞の里山で、大洞の里山つくり会の里山整備活動と「流しそうめんパーティー」が行われました。

最初に、大洞の里山つくり会会長の秋松さんより「大洞の里山つくり会」が岐阜市自然環境保全活動団体に承認されることについて報告がありました。岐阜市では11団体目の承認となります。

大洞の里山で地域を元気にしよう！を合い言葉に里山の活動を通して、里山の自然を地域へつなげていきます。「みんなで楽しもう、みんなに楽しみを提供しよう」という想いの結果として活動の「わ(輪・和)」が広がり、里山の状態もますます素晴らしくなっていきます。当初30名で始まった活動も今では60名に倍増し、大学生や地元中学生も活動に加わっています。



—岐阜市の自然・環境活動に関する問い合わせ—

発行者：岐阜市 自然共生部 自然環境課

TEL：058-265-4141 (内線：6451) FAX：058-267-1374

Email：shizen@city.gifu.gifu.jp

岐阜市自然・環境活動情報サイト「ぎふネイチャーネット」 <http://gifu-nature.net>